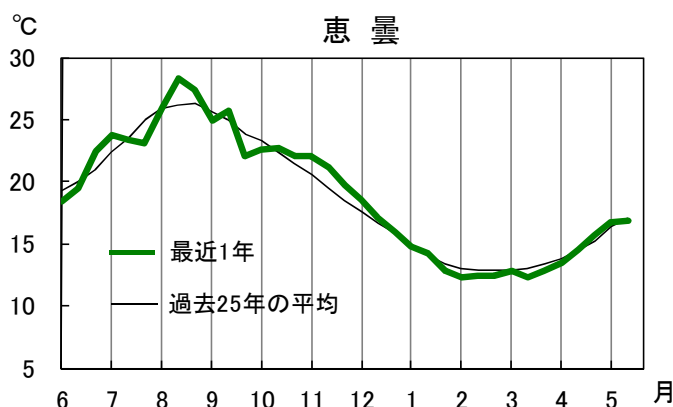
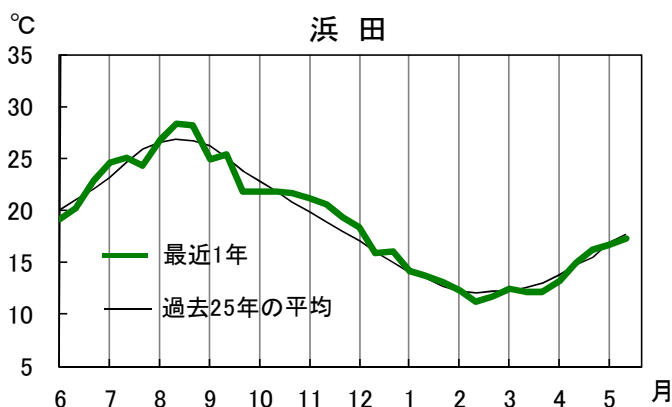




《4～5月の海況》

4月	月平均	平年差	評価
浜田	14.8℃	+0.1℃	平年並み
恵曇	14.5℃	±0.0℃	平年並み

沿岸定地水温は、浜田・恵曇地区とも、4月は上旬は「やや低め」でしたが徐々に高め傾向に転じ、中旬は「平年並み」、下旬は「やや高め」で推移しました。5月に入り中旬時点で両地区とも「平年並み」で経過しています。



《4月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではサバ類、マアジ主体の漁況で、1ヶ統1航海あたりの漁獲量は平年を下回りました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマイワシ主体の漁況で、1ヶ統1航海あたりの漁獲量は平年を上回りました。サバ類、マアジの漁獲量はどの地区においても平年を下回りましたが、マイワシの漁獲量は県東部で好調であり、平年の10倍の水揚げがありました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではスルメイカ主体（全体の100%）の漁況で、1隻1航海あたりの漁獲量は232kgで平年を下回りました。一方、西郷地区（属人5トン以上）ではスルメイカが僅かに漁獲されただけでした（漁獲量6kg）。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではキダイ主体の漁況で、1統1航海当たり漁獲量は9.3トンで、平年の7割の水揚げに止まりました。キダイは中旬まで好調に推移し、平年の1.8倍の水揚げがありました。また、アカムツも小型魚主体に量がまとまり、平年の2.4倍の水揚げがありました。一方、ソウハチ、ムシガレイ、ケンサキイカは低調に推移し、平年の5～6割の水揚げに止まりました。

【小型底びき網漁業】

和江、久手両地区ともソウハチ主体の漁況で、1隻1航海あたりの漁獲量は、両地区とも平年を1.2倍上回りました。ソウハチは平年並みに推移し、ヒレグロは平年の2.4～3.2倍の水揚げとなりました。また、小型サイズながらハタハタがまとまり、平年の5～8倍の水揚げがありました。一方、キダイ、スルメイカは低調に推移し、平年の2～6割の水揚げに止まりました。

【定置網漁業】

石見地区ではブリ主体の漁況で、1統あたりの漁獲量の平年比はブリが平年並みだったものの、この時期の主体の一つであるマアジが2割程度となり、全統の総漁獲量は平年の5割程度に止まりました。出雲地区ではブリ、マアジ類主体の漁況で、1統あたりの漁獲量の平年比はブリが1.4倍程度と好調だったものの、マアジが2割であったため、全統の総漁獲量は平年の7割となりました。隠岐地区ではマアジ、ブリ主体の漁況で、1統あたりの漁獲量の平年比はマアジが1.3倍、ブリが1.2倍と好調だったものの、この時期の主体の一つであるマダイが3割に止まったため、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。

【釣・縄】

石見地区ではブリ、アマダイ、メダイが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は25kgで平年並みでした。出雲地区ではブリが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は42kgで平年並みでした。隠岐地区ではブリ、カサゴ・メバル類が主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は22kgで平年並みでした。

【平成 24 年 4 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1 隻(統)1航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
まき網 (中型・大 中型)	浜田	サバ類、マアジ	111トン	48%	20%	9トン	68%	38%	▲
	西郷	マイワシ	7,693トン	133%	154%	122トン	139%	183%	◎
	浦郷	マイワシ、ウルメイワシ	4,852トン	126%	147%	87トン	120%	165%	◎
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ	3トン	16%	4%	232 kg	56%	67%	▲
	西郷	—	—	—	—	—	—	—	—
沖合 底びき網	浜田	キダイ	213トン	75%	65%	9.3トン	68%	73%	▲
小型 底びき網	久手	ソウハチ	167トン	117%	97%	802 kg	121%	116%	◎
	和江	ソウハチ	372トン	124%	128%	1,039 kg	119%	123%	◎
定置網 (大型)	浜田	操業なし	—	—	—	—	—	—	—
	美保関	ブリ	86トン	79%	57%	1,094 kg	100%	69%	▲
	浦郷	マアジ	27トン	110%	89%	1,082 kg	119%	102%	○
釣り・縄	仁摩	ブリ、メダイ、カサゴ・メバル類	11トン	111%	63%	31 kg	92%	80%	○
	大社	ブリ	28トン	47%	50%	44 kg	53%	66%	▲
	西郷	カサゴ・メバル類、メダイ	3トン	114%	33%	17 kg	104%	60%	▲

平年比：過去 5 年（沖底のみ 10 年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは平年比を－とした

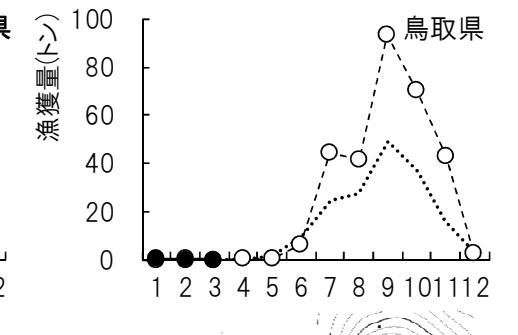
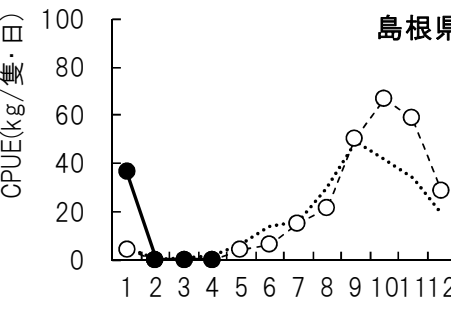
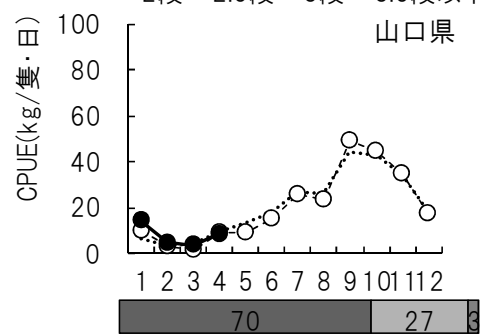
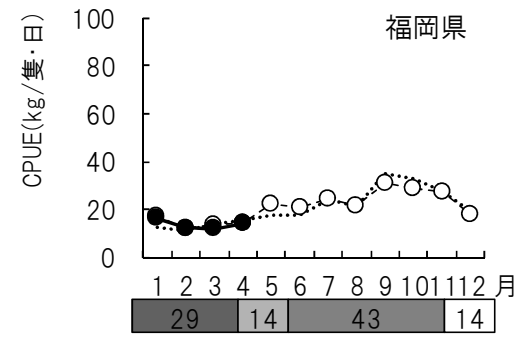
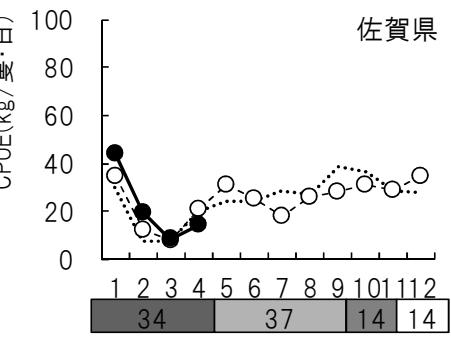
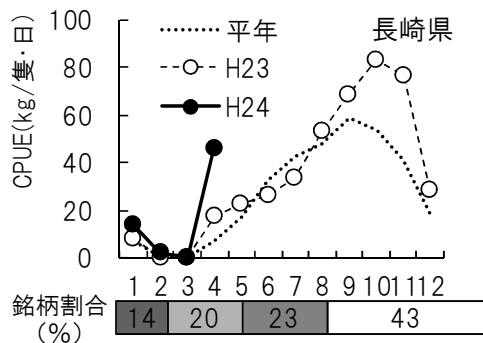
【ケンサキイカ情報】

長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I : 4月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

鳥取県	今のところ、ほとんど水揚げはありません。
島根県	イカ釣りでのケンサキイカの水揚げはありませんでした。
山口県	漁獲量は前年(前年比39%)及び平年(平年比16%)を大きく下回りました。
福岡県	漁獲量は前年比 103%、平年比 59%と、前年並で平年を下回りました。
佐賀県	漁獲量は前年比 58%、平年比 50%と、前年および平年を下回りました。
長崎県	漁獲量は前年(前年比39%)及び平年(平年比60%)を下回りました。



※平年は過去5年(H19~H23)の平均値

II : 5月上旬の底層水温

鳥取県	水深100mの底層水温は12~14℃でした。
島根県	陸棚上の底層水温は、温泉津沖は5~14℃で平年並み~かなり高め、高山沖は7~15℃でかなり低め~はなはだ高めでした。
山口県	対馬北東沖の冷水域(10℃以下)を除くと14~16℃台で平年並み~やや高めでした。
福岡県	沿岸域は、表層で16~17℃台と平年並み~やや高め、底層で16℃台と平年並みとなっています。沖合域は、表層で16~18℃台とやや低め~やや高め、底層で15~16℃台と平年並み~やや高めとなっています。
佐賀県	5月の底層水温は、壱岐水道で15.9~16.2℃、対馬東水道で15.0~15.9℃でどちらも平年並み~やや低めでした。
長崎県	底層水温は13-15℃台を示し、前年並み~やや低めでした。

